



徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

22/OCT. 2018

No. 1156



10月22日 月曜日

www.tokushukai.jp

発行：一般社団法人徳洲会
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL:03-3262-3133
制作：一般社団法人徳洲会 広報部
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL:03-3288-5580 FAX:03-3263-8125
Email:news@tokushukai.jp

南部徳洲会病院(沖縄県)は10月1日、今年度の看護師特定行為研修をスタートさせた。同日、院内で開講式を行い、受講する5人の看護師が出席した。今後1年間かけて研修を行い、修了すれば受講者は「呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連」と「ろう孔管理関連」の2区分に関する特定行為が行える。

看護師の特定行為

南部病院が初研修を開始 まず自院看護師5人受講

特定行為とは、医師や歯科医師の指示の下、手順書に基づいて看護師が自ら行える診療補助行為で、21区分38行為に及ぶ。このうち南部病院は8月に厚生労働省から「呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連」(気管カニューレの交換)、「ろう孔管理関連」(胃ろうや腸ろう、膀胱ろうカテーテルなどの交換)の2区分3行為の研修機関に指定された。

初の研修受講者はすべて自院の看護師。面談などを行ったうえで、「呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連」では亀谷奈緒美看護師、岩井香緒里看護師、照屋薫乃子看護師、「ろう孔管理関連」では加島卓看護師、山岡裕矢看護師の計5人が選ばれた。

開講式では、赤崎満院長と鶴飼悦子・看護部長が受講者にエール。研修運営メンバーの中村啓介・看護師長(集中ケア認定看護師)が研修の概要説明を行った後、受講者を代表して岩井看護師が「私たちは未来に向かい、力合わせて頑張ります」と力強く宣言した。

研修は、eラーニングによる講義(一部はスクリーング)から始まり、循環器、呼吸器、消化管・肝胆膵、精神系、小児科・産婦人科・高齢者、救急/在宅など共通科目を来年5月までをめぐり336.5時間かけて学ぶ。

6月からは、実践をイメージしたトレーニングの「演習」と、実際にベッドサイドに赴いてトレーニングする「実習」を行い(呼吸器[長期呼吸療法に係るもの]関連は計21時間、ろう孔管理関連は計48時間)、適宜実施する試験をクリアすれば修了となる。なお、研修を受けるなかで研修施設に症例報告(5例以上)も行わなければならない。

同院は「学修進度表」を用いて受講状況を管理しており、いずれの受講者も「就労しながらも順調に進んでいる」(中村師長)という。鶴飼・看護部長は「とくに医師が少ない離島・へき地病院などで、医学的視点ももち合わせ幅広く対応できる看護師は必要不可欠だと考えています」と強調。

来年度以降は離島の看護師に、より積極的に受講を呼びかけていく意向を示した。



開講式に臨む(左から)山岡看護師、加島看護師、亀谷看護師、照屋看護師、岩井看護師

離島・へき地の看護師に呼びかけ



研修機関の指定証を手に鶴飼看護部長(右)と中村師長

「東京西徳洲会病院の現況と診療内容について」をテーマに講演。同院の特徴として顎口腔外科のみを診療していること、同科単独の当直体制を24時間365日敷いていることなどを挙げ、診療実績や外来患者数の年次推移などを詳細に提示した。さらに最近の摂食嚥下にも取り組み、VE(嚥下

内視鏡検査)やVF(嚥下造影検査)を積極的に実施。佐野副院長は「大きな手術は歯科医師が少なくとも3人いないとできませんが、口腔機能管理やVE、VFなどは、マンパワーが少なくてもできます。要望があれば勉強する機会をつくることも可能です。本日学んだことを今後の日常診療に取り入れてください」と提起した。

最後にグループディスカッションを実施。参加者からコスト管理、人員確保、医療材料の購入など課題が出され、佐野副院長が見解を示したり各病院が取り組みを紹介したりし、出席者全員で改善に向け議論をした。今後はeラーニングリストでの情報共有を継続し、ひとりで悩みを抱えないよう、部会としてサポートしていく方針を確認し、閉会した。

徳洲会歯科口腔外科部会が発足

経営改善策など議論

部会長に佐野・東京西病院副院長



全国26病院の歯科口腔外科医師が情報共有

「私たちは一致団結し、知恵を出し合って現状を打破しなければ、歯科口腔外科として患者さんのためになる医療行為ができません。こうした状況を共有するためにグループ病院の歯科口腔外科医師が集まる場を設けました。自院のなかで活躍でき、必要とされる歯科口腔外科を指し意

この後、一般社団法人徳洲会大阪本部の加藤俊昭・事務局長が「徳洲会グループ歯科口腔外科経営分析」をテーマに講演。グループ全体の損益推移、各診療科の医師在籍数、

徳洲会グループは歯科口腔外科部会を設立、9月29日に千葉県内で全体会議を開催した。部会長は東京西徳洲会病院の佐野次夫・副院長兼歯科口腔外科部長。院内での歯科口腔外科のあり方を考え、歯科の経営改善を図るのが目的。全国26病院の歯科医師らが集まり活発に議論するなか、一般社団法人徳洲会の鈴木隆夫理事長も駆け付け、これからの歯科口腔外科に期待を寄せた。

「一致団結し知恵を出し合い現状打破」

会議の冒頭、佐野副院長は「8年前に歯科口腔外科医が集まり会議を開いた時には、徳田虎雄・前理事長から歯科口腔外科のあり方について厳しく問われました。現在では医療機器や物品を購入する際に、科別損益によって決められることもありません」と吐露。

「私たちが一致団結し、知恵を出し合って現状を打破しなければ、歯科口腔外科として患者さんのためになる医療行為ができません。こうした状況を共有するためにグループ病院の歯科口腔外科医師が集まる場を設けました。自院のなかで活躍でき、必要とされる歯科口腔外科を指し意

見交換をしましょう」と呼びかけた。

鈴木理事は「皆さんは厳しい状況のなか、頑張っていること、思いま

「どのように自分の存在価値を示すか考えて」と鈴木理事長



周術期口腔機能管理について説明する中村センター長

次に、宇治徳洲会病院(京都府)の中村亨・歯科口腔センター長が「周術期等の口腔機能管理」と題し講演。周術期口腔機能管理は、術後の誤嚥性肺炎など合併症の軽減を目的に2012年度の

科別損益などデータを示しアドバイスを送った。「徳洲会では2カ月に一回開催される医療経営戦略セミナーなど、経営を学ぶ機会が多くあります。今後は、主に外科系だと思いますが、他科の医師とも密接に連携を図り、患者さんのために頑張ってください」と締めくくった。

坂本・日野病院看護師長 精神科感染対策で会長賞



坂本看護部長(左)と共同演者の馬場淳臣院長

日野病院(神奈川県)の坂本禮子・看護部長は9月1日、第84回神奈川県感染症学会で「精神科の感染対策～インフルエンザ発生の経験から～」をテーマにした発表により会長賞を受賞した。

昨年2月、同院精神科療養病棟で断続的に7人がインフルエンザを発症し、感染対策を実施した際に直面した精神科特有の課題とリスクについて解説。当時について坂本師長は「他病棟に感染を広げないために、患者さんへ手洗いやマスク着用など説明・指導を行いました。患者さんはふだんの生活習慣を変えることにストレスを感じ、同時に職員も日常業務と感染対策の実施に緊張感が出ました」と説明する。

このような状況が2週間ほど続いたが、根気よく指導したりストレス対策を行ったりした結果、半数以上の患者さんが互いに声かけや注意をし合うなど行動変容が起きた。「閉鎖的環境は感染対策に効果的な面もありますが、そこで過ごす患者さんにはストレス対策も必要。ケアの工夫による衛生習慣づくりに取り組むことも意義がありました」と結んだ。

第84回神奈川県感染症学会

中村センター長は「口腔機能管理は、主治医だけでなく看護師やメディカルクラークに参加させたり、クリニカルパス(診療計画)に組み込んだりするほうがスムーズです」とアドバイスを送り、管理だけでなく、摂食嚥下障害を含む口腔ケア、終末期医療での食支援など、地域包括ケアシステムで歯科に期待される役割はリンクしています」とまとめた。

佐野副院長は「大きな手術は歯科医師が少なくとも3人いないとできませんが、口腔機能管理やVE、VFなどは、マンパワーが少なくてもできます。要望があれば勉強する機会をつくることも可能です。本日学んだことを今後の日常診療に取り入れてください」と提起した。